

「武将茶人 上田 宗箇」

みなさんは、上田宗箇流という茶道の流派を知っていますか。茶道というと、千利休が広めたことで有名ですが、広島にはそれとは別のすばらしい武士の茶道が受け継がれているのです。

今から四〇〇年ほど前、上田宗箇という武士がいました。もとは、織田信長や豊臣秀吉に仕えたこともあり、後に芸州藩（今の広島）に迎えられ、大竹や廿日市をおさめる領主となったのです。宗箇は、体は小さかったのですが、いくさの時には勇ましい活躍をして、たくさん褒美をもらうような武将でした。

当時、武士は、いくさのあいまに茶の湯を楽しみ、つかの間の安らぎを楽しんでいました。宗箇も茶の湯が大好きで、殿様を自分の屋敷にお迎えするときも、必ず茶の湯を点ててお迎えするほどの腕前でもありました。

宗箇は古田織部という武士に茶道を習いました。織部は、信長や秀吉に仕えた有力な武士であり、千利休の弟子でもありました。織部は宗箇にお茶を伝えるとともに、宗箇の生き方にも大きな影響を与えました。

ある時、織部は自分の弟子である宗箇にこう話しました。
「千利休は静かなものに美しさを感じ茶道を作りました。私は動きのある新しいものに美しさを感じ茶道を作り上げてきました。さて、あなたの茶道にはどんな自分らしさがありますか？」

宗箇そうこは「はっ」としました。これまで自分じぶんは利休りきゅうや織部おりべから茶道さどうを習ってきたが、自分じぶんらしきについて考えたことはなかったからです。

「私の茶道わたし さどうには自分じぶんらしきがない・・・」

宗箇そうこは大きなショックを受けました。

宗箇そうこは自分流じぶんりゅうの茶道さどうをもとめて、いろいろと試ためしてみました。(2) 茶杓ちやしやくを作ったり、花入れはないを作ってみたりしましたが、満足まんぞくのいくものができませんでした。茶碗ちやわんも職人しよくにんに任せず自分で作ってみました。しかしどれも利休りきゅうや織部おりべのいいところを真似まねているようで、とても自分じぶんらしきを感じることはできませんでした。

「自分じぶんには新しいものは生み出せないのではないだろうか・・・」

そう悩む日々が続つづきました。

ある日あるひ、宗箇そうこはいくさに出陣しゅつじんしました。(3) 大阪夏おおさかなつの陣じんの戦たたかいです。

宗箇そうこはいくさの合間あいまに心を落ち着おけようと、一本の美しい竹いっぽん たけを見つけ、茶杓ちやしやくを削けずり始めました。いつ敵てきが攻めてきて命いのちを落とすかもわからない状況じょうきようの中で、覚悟かくごを決めながら、それでも使いやすいように心をこめて一心不乱いっしんふらんに削り続けずけました。

無心むしんに削けずった茶杓ちやしやくは、直線ちよくせん的で、実じつに味わい深いものでした。そして武士ぶしの力強ちからづよさ、大胆だいたんで豪快ごうかいな堂々どうどうたる姿すがたがあらわされていました。

宗箇そうこはできあがった茶杓ちやしやくを夕日ゆうひにかかげて見上げました。その茶杓ちやしやくは夕日ゆうひを照てり返かえし、まぶしく輝かがいていました。

「そうだ！これだ！これが私わたしらしきなのだ！」

と、大きな声でさけびました。

そこには、利休りきゅうとも織部おりべとも違った新しい上田宗箇うえだそうこらしさがありました。

「私らしさとは、武士ぶしの強さつよをもったもの。いや、しかしそれだけではない。」

宗箇そうこは、さらに自分らしい茶道さどうを作ることに夢中むちゅうになりました。

宗箇そうこが作る茶碗ちやわんや花入れには、武士ぶしの力強さちからづよが表現ひょうげんされており、無駄むだのない、りんとした美しさうつくがありました。しかし、その強さの中にも使う人にやさしく思いや

りのある繊細せんさいさや、自分なりの思いをこめたのでした。

宗箇そうこは、武士ぶしとしての強さつよと優しさやさを兼ね備かねえた生き方をもとに、新しい上田宗箇うえだそうこの茶道さどうをついに、完成かんせいさせていったのでした。

宗箇そうこが戦いたたかのさなかに作った茶杓ちやしやくは「敵てきがくれ」という名前がつけられ今でも大切にされています。

【注】

(1) 客を招き、抹茶まっちゃをたてて楽しむこと。また、その作法や会合のこと。

(2) 茶道の点前てまえで抹茶をすくう細長いさじのこと。素材は主として竹であるが、象牙、金属、陶器などもある。

(3) 元和元年（一六一五年）夏、徳川方が冬の陣の和議の条件に反して大坂城内堀を埋めたため豊臣方が兵を挙げ、徳川家康らに攻め落とされた戦い。

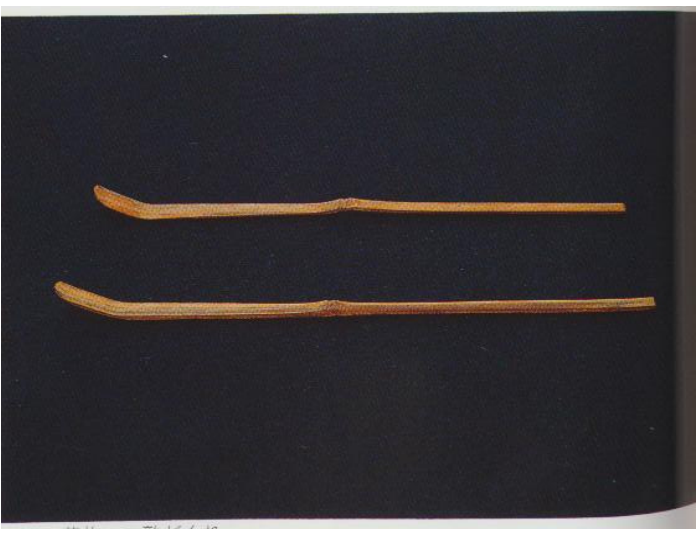
【参考文献】

上田宗嗣「茶道 上田宗箇流」（一九三四年）ひろしま文庫

渡 好美「上田宗箇とその時代」（一九九四年）溪水社

津本 陽「風流武辺」（二〇〇二年）朝日文庫

矢部良明「武将茶人 上田宗箇」（二〇〇六年）角川書店



久野 治「古田織部とその周辺」(二〇〇九年) 鳥影社
山田芳裕「へうげもの」(二〇〇五年) 講談社
季刊誌「和風」